

# 企画提案書依頼事項

「企画提案書について」

## 1. 企画提案書の様式

- (1) 用紙は、各様式とも A4 サイズ（両面印刷可）を使用すること。ただし、図表やグラフィック等の説明資料については A3 用紙も使用可能とするが A3 用紙を使用する場合は、横折込みとすること。
- (2) 作成部数は 3 部とし、表紙については 1 部のみ正本表紙の【様式 4-1. 表紙（正本）】を使用し、残りの 2 部の表紙は副本表紙【様式 4-2. 表紙（副本）】を使用すること。また、提出書類一式のデータをセキュリティに配慮した方法で提出すること。
- (3) 法人名等については、正本のみ記載すること。副本に提案者名や提案者が推測できる記載がある場合は、記載部分を黒塗りするなどして提案者がわからないようにすること。

## 2. 企画提案書の項目

本業務に係る提案書は、別紙仕様書を踏まえて次に掲げる事項について記述・提案すること。

### (1) 履行実績【様式は任意】

2019 年度以降に履行した、教育機関を対象とした国内向けまたは海外向けプロモーション動画（英語版）の企画・構成を含む制作業務の実績について記入すること。

- 1 本プロポーザルの参加申込時に提出した契約実績を含めても可。（参加申請書の契約実績の提出のみでは評価の対象とはならないので注意すること）
- 2 主な契約例を 3 点（プロモーション動画と可能であればそのコンセプトを添えて）提出すること。
- 3 提出した動画がクライアントの要望に適合し具体的な効果を上げた事例を提示すること。

### (2) 積算根拠【様式は任意】

本事業実施の見積金額を税込で算出すること。また、その積算根拠の内訳も明確にすること。

### (3) 実施体制【様式は任意】

受託者の業務実施体制・実施体制図

本業務を実施する貴社の体制を役割別に記入すること。また、体制を図式化して記入すること。

### (4) 実施計画・スケジュール【様式は任意】

### (5) 提案書【様式は任意】

「大阪公立大学ソーシャルイノベーション（SI）コースに係るプロモーション（PR）動画企画制業務委託仕様書」（以下「仕様書」という。）を参考に、「S：Osaka Social Impact Project（OSIP）プログラム共通のクレジット用動画」、「A：バーチャル・ランゲージテーブル（VLT）参加者募集用プロモーション動画」、「B：バーチャル・ランゲージテーブル（VLT）ボランティア募集用プロモーション動画」、「C：ソーシャル・イノベーション（SI）留学生受入コースの PR 動画」、「D：大阪公立大学のインバウンドプログラム一般のプロモーション動画（OSIP at OMU）」、について、構成及び絵コンテ、台本等を用いて提案を行うこと。

## 企画提案書の審査基準への対応

以下の項目を企画提案書に明示してください。記載内容は審査基準に照らして可能な限り具体的・定量的な情報を提供してください。

1. **コンセプト・テーマの明確性と一貫性**
  - 【コンセプト明示】：本教育プロジェクトが解決したい課題や発信したい価値をどのようなテーマ・メッセージで表現するか明確に示すこと。
  - 【一貫性のある表現計画】：動画全体を通じ、コンセプト・テーマに沿ったストーリー構成、ビジュアルスタイル、ナレーション・音楽の方向性などを記載すること。
2. **ターゲット層への訴求方法と効果**
  - 【ターゲット定義・アプローチ法】：どのようなターゲット層を想定しているか、またその層にプログラムの特徴・価値をどのような手法で効果的に伝えるか具体的に述べること。
  - 【訴求効果の想定】：映像が視覚的・感情的にターゲット層に与えるインパクトや、視聴後に期待される心理的变化、行動変容、理解促進の成果について記載すること。
3. **表現手法の独創性・創造性**
  - 【クリエイティブ手法の詳細】：ナレーション、インタビュー、アニメーション、実写映像、モーショングラフィックス、音楽・効果音など、用いる表現手法とその目的・意図を明確にすること。
  - 【他との差別化ポイント】：本提案が他の映像作品と比べて際立つ点、独自性、オリジナリティについて説明すること。
4. **制作スケジュール・体制の信頼性**
  - 【制作プロセス・スケジュール案】：企画、撮影、編集、修正、納品までの工程と、それぞれの予定期間を明確に示すこと。
  - 【制作体制・担当者情報】：ディレクター、カメラマン、編集者、アニメーターなど、担当者や協力会社の役割分担、および制作体制を具体的に示すこと。
5. **費用対効果・予算の妥当性**
  - 【見積費用内訳】：制作費用の概算見積もりを明示し、主な費用項目（撮影費、編集費、ナレーション・音楽費、ライセンス費用、その他経費）を分かりやすく記載すること。
  - 【費用対効果分析】：提示費用で得られるクオリティ・効果、使用される機材・人材レベル、納品後の利活用展開見込みなど、費用に見合う価値について言及すること。
6. **過去実績・クリエイティブスキルの証明**
  - 【実績紹介・参考リンク】：過去制作した映像作品の URL や紹介資料を提示し、今回の提案内容に関連したスキルを確認できるようにすること。
  - 【制作過程上の強み】：過去プロジェクトで培った問題解決力、効率的なワークフロー、クリエイティブなアイデア創出実績などを説明すること。